

第 21 回 国土交通中部地方有識者懇談会 議事要旨

日時：平成 25 年 2 月 18 日（月）13:30～15:00

場所：KKRホテル名古屋 3階 蘭の間

議事

I. 新まんなかビジョン

1. 5つの目指すべき価値域づくりの方向性への反映（案）について
2. 9つの各地域における将来イメージ等の見直し（素案）について

（須田座長）

- ・ 前はこれまでのビジョンについて、委員の皆様方の意見を承り、まとめさせていただいた。
- ・ 例え、災害対策については5つの柱の中で、他の柱とは性格の違う基本的なベースになるようなものとして位置づけた。官民の連携や地域の競争力の強化についても、いただいた意見を踏まえたものを事務局からお示しいただき、再度ご意見をいただいて、骨子を整理させていただきたい。その結果をまとめ、次回の会議に諮りたい。

（奥野委員）

- ・ 参考資料3のP9に50年便益が10.7兆円とあり、半分強が時間短縮効果と駅周辺の間接的な効果のフローがあると思うが大雑把なところで教えて頂きたい。

（河上委員）

- ・ 目指すべき将来の姿の中の「災害に強い中部」で、5つの具体的な目標が掲げられている。「既存の社会資本ストック機能を持続」とあるが、もう少し積極的な表現に改めたい。
- ・ 熊野川水系でダムの中砂滞留による機能低下と海岸侵食の問題があるが、ダムの土砂を利用して海岸侵食対策に使うといった戦略的な社会ストックの維持という視点があつてよいではないか。
- ・ 元気な高齢者の方や女性の活躍できる環境づくりや所得控除といった、税の仕組みを段階的なマイナス部分が解消されれば1年中長く働けてプラスになるため、官民挙げて活動できる仕掛けを作っていく必要がある。
- ・ 若い世代は雇用されたい者が増えており、起業できる環境づくりや支援が必要である。
- ・ 資料2のP10「伊勢と紀伊半島中南部を結ぶ地域」、【地域の目指すべき将来イメージ】に、「気候」という言葉も入れていただきたい。熊野市では、気候を活かしたスポーツ集客交流を図ろうという動きがある。中部の多様な気候をうまく活用する事も視点としては必要ではないか。

（日置委員）

- ・ 北陸新幹線の開通がこの地域にどう影響を及ぼすか、効果をどう取り込むかという

視点も必要である。富山、金沢、福井へ北陸新幹線が伸びていき、この地域との結びつきをインパクトとして捉える必要がある。

- ・中部縦貫自動車道が、福井-岐阜-長野というルートと結ぶことから、9つの地域の⑨「長野と飛騨、北陸沿線を結ぶ地域」【広域的な観点】に、福井を追加したい。
- ・名称についても「飛騨」だけでなく「・奥美濃」あるいは「・郡上」と表現していただきたい。

(中村委員)

- ・今年が一番のメインイベントは伊勢神宮の第62回式年遷宮である。1000万人が伊勢志摩に押し寄せるが、道路の整備は国道167号以外に、伊勢湾の循環道路等や外宮と内宮が離れているので交通渋滞が問題になっているおり完全とは言えない。式年遷宮に対する対策を十分にやっていきたい。
- ・昇龍道について、三重県の方から岐阜そして能登半島にわたるがバランスに配慮してもらいたい。
- ・インバウンドについて、従来の中国、台湾だけではなく、現在三重県はインドネシア、ベトナム、インドが増えているのでターゲットを変えていかなければならない。

(須田座長)

- ・緊急的な課題の指摘であった。式年遷宮に向けた道路渋滞問題は、今から大きな工事はできないが、道路の使い方の工夫で対応できないか。
- ・昇龍道プロジェクトについては、バランスを取ってやっていくという話であった。既にプロジェクトが進んでいるので、念頭においてご配慮いただきたい。

(後藤委員)

- ・5つの方向について、「災害に強い」というのは大前提の問題だが、災害対策はコストがかかるため、優先順位を付け対策していくことが大事なことである。
- ・将来、日本国内でのものづくりが強い力を発揮でき競争力が持てるのかと考えると、難しい点があるのが実感である。デザイン、ファッション性、センスの良さといったソフトの部分での力をつけ、イタリアやフランスのようなイメージの産業構造を作っていく必要がある。
- ・5つの課題では、3（交流・連携）、4（環境・景観）、5（暮らし）というところをさらに強化し、ウエイトをかけていく必要があるのではないだろうか。
- ・交流が活発な中部として、県内162キロが開通した新東名、静岡空港、県内の3つの港、それぞれを強化することを考えている。新東名は、通過、通行だけでなく、一般道からも利用できる新東名のSAにおける6次産業、内陸フロンティアという面での期待ができる。
- ・東西軸だけでなく南北軸も重要。伊豆縦貫自動車道、中部横断自動車道、三遠南信自動車道の計画を早く実現し、南北と東西がうまく組み合わせられるようにしたい。
- ・富士山の世界文化遺産登録、伊豆のジオパークの問題、南アルプスの開発の問題等、将来性あるテーマを抱えている。日本のこれからの生き方を考えると、物質優先の価値観

は限界にきている。精神的なものやゆとりなど、スローライフに価値観を見出すような構造に変えていかなければならない。環境・景観について静岡県の場合は、もっと進める必要がある。

- ・暮らしについて、地元に対して愛着を持てることが重要。静岡県、静岡市、浜松市、愛知県岡崎市などが協力して、2015年の徳川家康公顕彰400年祭に向けて取り組んでいるが、一過性の祭りとして終わらせないよう「徳川みらい学会」を立ち上げ、江戸時代265年の平和国家を世界へ発信していきたい。
- ・外国人の労働力の問題は無視できない。多文化共生について一段の強化が必要である。
- ・東京一極集中になり過ぎているため、関西の復権を真剣に考えないとこの中部も将来がない。バランスを取る政策が必要になってくる。

(奥野委員)

- ・今の国土形成計画の一番大きな特色は広域連携である。9つの地域の全体を跨ぐような広域連携について少し弱いと思う。昇龍道では、感覚的に広い範囲の広域連携のイメージとして出てきた。今後検討される国土強靱化では、中部圏広域でのハードだけでなく、ソフトでの連携が大事であり詰めて頂きたい。
- ・名古屋の中核都市として、機能強化というところが都市の魅力の中での重要ポイントとなる。
- ・リニアについて、名駅周辺がどう受け止めるか既に議論が始まっている。周辺市町村も関心が次第に高まってきているので後押しについても考えていただきたい。また、中部圏全体のリニア対応の広域連携による議論が非常に弱いと感じる。

(水谷委員)

- ・中部は十分発展をしつくしたので、守りの姿勢に入ってきているのではないかという懸念を持っている。維持しようにも発展性を維持しないことには維持もできない。
- ・国の生産力は、維持向上していかなければいけないと思う。ものづくりは重要であり民間に任せ、役所は社会資本の充実を行ってきた。
- ・社会資本の整備は平等化に進み全国各地に空港、高速道路を建設してきたが、平等化に主眼を置いたために国際的な地位が落ちている。全国的に見て社会資本整備を中部に集中させるべきであろうと思う。
- ・社会資本の老朽化対策を強調しなくてはいけない。
- ・中部は日本を支え世界に貢献してきていることから、これを続けていくにも、より素晴らしい世界のインフラを造っていくという目標が必要だということを強調したい。

(林委員)

- ・資料1のP3について、名前の付け方が時代性に乏しいのではないか。超高齢化社会により社会が弱っている、一方、自然が猛威をふるっているため、活性化しなければならないといった基本条件が変わってきている。
例えば、「愛着のもてる中部」とあるが、「地域の絆の再生」「絆・交流のある社会」といったニュアンスをタイトルにするといいのではないか。

- ・交流が目的でなく何のために交流するかが必要である。異なる価値をもつ他の地域と交流する。都市と農村、日本と他国で人々の心を通わせるというのが究極の目的であり、ベースとして経済交流が非常に重要となることから目的をタイトルにしてはどうか。
- ・「活力ある中部」については、産業と文化といった両方の活力が必要であり、そのニュアンスが必要である。
- ・企業の活力と個人のQOLを向上するというのが究極のゴールとしてあり、その結果、地域が尊敬されることになる。そのインフラストラクチャー、空間を作る部分が今回の会議の役割ではないか。

(東委員)

- ・地球温暖化による災害、問題が起きているため、資料1、P4の「災害に強い中部」に地球温暖化が入ってきてもいいのではないか。
- ・【課題に対する主な取り組み】で「粘り強さを発揮する構造物の検討」とあるが、今後、適切な盛土、自然の環境と構造物、植生といった自然植生、復元を含めた空間の工夫を視野に入れて欲しい。
- ・P6の目標④「ものづくりに不可欠な水などの安定確保を図る」について、エネルギーの安定確保がものづくりに大変重要である。水とともにエネルギーの安定確保という点を加えてはどうか。
- ・P8の目標②「社会基盤整備で都市機能を高度化し、各地域の自立を促す」、目標③「中山間地や農山漁村の地域力を向上し、各地域の自立を促す」、いずれも各地域の自立とあるが、「あじさい型の都市づくり」は個々の地域の自立ではなく、交流・連携し補完し合い、支え合う事によりエリアとしての自立が生まれてくる連携・交流に伴った自立を促す記述に変えてはどうか。
- ・目標②「社会基盤整備で都市機能を高度化し、各地域の自立を促す」について、社会基盤整備の新たな再生に伴う都市機能の高度化が求められていることを明確に書いたらよいと思う。
- ・P11の景観や環境に関する点を変えていただいたことでよくなっている。
- ・「暮らし」で、豊かで多様な自然と産業、歴史に恵まれた中部に生きることの幸せを感じ、満足度が持てる地域づくりを進めていければと思っている。集約したまちづくりが適切なのか再検討が必要と思われる。
- ・資料2の①「駿河湾沿岸から長野県東部を結ぶ地域」エリアについて、駿河湾ビジョンでは湾が一つで港の機能や海洋環境が考えられている。この図では伊豆半島が欠けている。伊豆半島、富士山も含め、中山間地と海洋環境、沿岸一帯の環境形成が国土を強くしていくことに繋がることから、もう一度改めて、エリアについて再検討を願いたい。

(宮崎委員)

- ・国際競争力とは「いいものを、価格を安く、早く安定的に供給すること」であり、「物流の効率化」が競争力の強化につながる。中部地域は、物流ネットワークの整備を相当進めて頂いており感謝しているところがあるが、競争力強化のためには、高速道路を含むネットワークの整備をさらに進めていただきたいと思います。

- ・災害に強い中部が、第一優先とされたことは大変賛成である。民間企業も南海トラフ巨大地震に対するBCM（事業継続マネジメント）の策定に追われている。是非、ハードだけではなくソフトもあいまって、中部が一番災害に強い地域だと自信を持って言えるように官民で連携して取り組んでいきたい。

（山本委員）

- ・資料1のP12「暮らし」において「愛着のもてる中部」としているが、「効率的な集約化」というイメージがある。住む人がその地域に対して魅力を感じ、外からも人が集まってくるという視点が非常に大事だと思う。さもなければ、東京一極集中、中部圏から人が外へ出ていってしまうことになる。
- ・資料1のP4～5について、安全・安心面あるいは技術を伝えるために、安心・安全を支える人材の育成が重要である。

（小出委員）

- ・資料1のタイトルは、一般の人の興味を引くような味のあるものがよい。例えば、「愛着のもてる中部」は「故郷の香る中部」としてサブタイトルで各論を出せばよい。
「自然と共生する」は「海と山と生きる中部」。
「交流が活発」は「異文化とも出会える中部」。
「活力ある中部」は「若さを支える中部」、「若さと力の中部」。
「災害に強い中部」は「郷土を守る中部」等。
- ・都市というのは、そこで生まれた人間が死ぬまでに全ての都市施設を味わい尽くせる都市というのが一番良いと思う。中部に住んでいる人の人生に、どれだけ寄与できるかという視点を入れてもいいのではないか。
- ・リニアについてはビジネス面では非常に戦略的なインパクトを持っているが、限られた人の利用にとどまり、一般の人たちは利用しにくいのではないか。乗車料金の壁も含め、一般の人や沿線にどのようにプラスに作用していけるかという視点が欠けている。
- ・名古屋に住んでいる人がどの地域を一番近く感じるかというサイコディスタンス（心理距離）を調べ、日本列島を再構築したことがある。時が経つと変化していくと思うが、交流連携と密接に絡むので重要な視点ではないか。

（水尾委員）※事務局代読

- ・社会資本整備の経費、予算等の削減に対しては評価されてきたが、既に限界を超えてきており、目先の評価を得るための経費削減については反省が必要なのではないか。犠牲者が発生しないと国民的議論にならないという考え方を変えて、新規事業への投資と同様に維持管理へも費用をつぎ込むべきである。
- ・中部がものづくり産業の中核という地位を今後も維持していくための条件としてエネルギー問題は重要であるが、外国の失敗を手本に、日本では同じ失敗をすることは避けるべきである。また、再生可能エネルギーの限界を正確に把握した上で、エネルギーの確保が重要ではないか。
- ・北陸の技術を中部のものづくりに活かすための縦の連携が必要である。

(須田座長) 総括

- ・『これからの施策の方向』、『将来の展望、長期的な視野に立った意見』、『表現の仕方』についての意見があった。
- ・『これからの施策の方向』についての意見は、まず3つのポイントがある。1つはバランス、2番目は連携について、3番目は雇用問題である。
- ・1つ目の『バランス』とは関東と関西との間のバランス、東京に過度の集中が無いように他の地域とのバランスをとる。中部もその中でそれらと一定のバランスを保って、発展させていかななくてははいけない。また、中部での東西と南北の交通軸のバランスを取るべき。
次にソフトとハードのバランス。ものづくりについてもデザインのようなソフトも重視しなければならず、同時に価値基準が物質優先になっているため、もう少し精神的なものも入れたものを考えていく必要がある。
- ・2つ目の『連携』について地域を9つに分けているが、昇龍道プロジェクトでは地域が連携するような施策が取られおり、昇龍道プロジェクトを活かし連携が緊密になるようにしなければならない。リニアも地域連携に役立つという事であり、連携という視点から、もう一度その価値を見直していく必要がある。
- ・3つ目の雇用問題について、高齢者、女性の雇用がこれからの問題である。また、多文化共生の問題、外国人労働者の受け入れの問題に対し、避けては通れない時期が来ており総合的な雇用対策を考えていく必要がある。
- ・『将来の展望、長期的な視野に立った意見』については、持続だけでなくもう少し勢いのある表現にしてはどうか。守りに徹してはならず持続し続けるためには、持続性だけでは不十分であり、発展性を取り上げるべき。特に、国際的な視点に立ち満足のできるインフラでなければならない。そのためには選択と集中、重点的な施策が必要となる。
- ・『表現の仕方』について、5つの柱のタイトルは、現代風に「絆の再生」、「若さと力の中部」、「異文化の出会いの中部」等、既存のタイトルも必要であるが、副題とするか、キャッチフレーズ的なものを主題とするか。2つのタイトルがあっても良い。ビジョンの価値を高め、国民的関心を呼ぶためにも新しいタイトルも必要である。
- ・中部の中核は名古屋だと強調すべきである。また、地球温暖化やエネルギー問題についての意見があった。
- ・自立の問題については、お互いに持っているものを相互補完する関係の中から自立を見出すべきではないか。
- ・「気候」という言葉、飛騨に奥美濃を追加、北陸新幹線を念頭に置くべき等、言葉のニュアンスについてもご意見を参考にしていきたい。
- ・私見であるが、9つの地域ごとに「地域の課題への対応」、「地域の目指すべき将来イメージ」、「広域的な観点で更なる検討を重ねるプラン」という項目が書かれているが、理解しやすくすることから、それぞれポイントを集約し冒頭に一覧表を付けてもらえると判りやすい。地域概要、重点対策として何をするか、配慮すべきことは何か、この3つを記載した資料の作成を願いたい。

以上